

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 5 年 8 月 25 日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 該当するものを で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO、 <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	一般財団法人会津若松観光ビューロー	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 福島県会津若松市	
所在地	福島県会津若松市	
設立時期	平成 26 (2015) 年 4 月 1 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	8 人【常勤 8 人 (正職員 6 人・契約社員 1 人・臨時 1 人)】	
代表者 (トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) 必ず記入すること	(氏名) 新城猪之吉 (出身組織) 末廣酒造(株)	創業嘉永年間にて本市を代表する酒蔵 (蔵元) 末廣酒造(株)代表取締役を務め、過去には東北や福島県の酒造組合の代表等にも就任。観光と酒造や食を結び付ける取り組みを積極的に推進。東日本大震災後の本県観光物産復興の旗振り役となる。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者 (CMO: チーフ・マーケティング・オフィサー) 必ず記入すること	(氏名) 新井田信哉「専従」	一般財団法人会津若松観光ビューローの前身である旧財団法人会津若松市観光公社へ 1989 年に入社。以降、主に総務管理や施設の管理運営に従事、2022 年 11 月から観光物産事業部においてデータ収集・分析担当。
財務責任者 (CFO: チーフ・フィナンシャル・オフィサー) 必ず記入すること	(氏名) 佐藤光一	2020 年 3 月まで会津若松市において行政の立場から観光商工部門を管理統括。 2020 年 4 月に現職就任。

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	<p>会津若松市観光課（インフラ整備・観光物産事業部との戦略共有、プロモーション等連携）</p> <p>会津若松市商工課（漆器・酒・民芸品）</p> <p>会津若松市農政課（SAVOR JAPAN 関係、地産地消促進）</p> <p>会津若松市地域づくり課（地域公共交通・産業振興）</p> <p>福島県観光交流局（観光戦略共有・プロモーション等連携）</p>
連携する事業者名及び役割	<p>（一社）福島県観光物産交流協会（地域連携 DMO との役割分担・連携）</p> <p>会津若松商工会議所（商工業振興・地域経済の活性化・観光振興《観光関連事業者の振興》）</p> <p>会津まつり協会（イベント関連事業者）</p> <p>賛助会員（「着地型旅行商品」造成協働など）</p> <p>東山温泉観光協会・芦ノ牧温泉観光協会（宿泊事業者《宿泊施設》滞在型観光促進《観光消費額の増》）</p> <p>J R 東日本(株)・会津若松駅（一次交通事業者）</p> <p>会津鉄道(株)（一次交通事業者）</p> <p>会津乗合自動車(株)・会津交通(株)・(合)広田タクシー（一・二次交通事業者）</p> <p>福島県立博物館（文化観光推進組織）</p>
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>【該当する登録要件】</p> <p>一般財団法人会津若松観光ビューローに市及び商工会議所、民間有識者を加え「会津DMO会議幹事会」を設置。さらに多様な関係団体で構成する「会津DMO会議」において情報共有と合意形成を図っている。</p> <p>課題解決に向けた実行部隊として、ワーキンググループリーダー会議を設置し強力に事業を推進している。</p> <p>（概要）</p> <p>民間有識者に加え観光地経営に直結する市や商工会議所を中心としたコアメンバーを軸として会津若松観光ビューローが会津DMO会議幹事会及び会津DMO会議を主導。戦略の策定やKPIの共有を図り、役割分担を行いながらPDCAサイクルの推進を図っている。</p>
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<p>定期的におもてなし向上等のセミナー・シンポジウムを実施。住民参加を促したほか、既存の市民団体組織等（会津若松市民総ガイド運動実行委員会等と連携）と連携し新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済再活性化事業の内容を協議。会津若松市と事業連携を行い積極的な参画を促した。</p> <p>*併せて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う店舗状況等について聞き取り調査を行った。</p> <p>市内観光地図や観光ガイドブック（あいばせ）や散策ガイド（会津楽市）まちあるきスイーツパンフレットなどを作成、協賛団体については、名称や商店名を記載するほか、広告協賛団体については広告も掲載、需要に応じて各店舗に必要部数を設置配布しているが、毎年作成しているため情報の更新等を通じ、日頃から観光地域として住民の意識醸成を図っている</p> <p>ビューローが持っている賛助会員約 400 名にあて、各種勉強会や講習会などの案内について都度情報を提供（一斉 FAX 活用）</p> <p>地元向け着地型旅行商品の造成・PR・募集・催行を行っている</p> <p>教育旅行委員会、びゅう會津会、など当社が事務局を務める団体の他、各種団体との会合等を通じて情報共有や共通認識の醸成を図っている</p> <p>そのほか、当社が運営している会津ファンクラブ会員（約 5000 人）へ向けた事業として会津ファン×観光大使の集いの開催、会津ファン特別ツアーなども行っている</p>

法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】	
	事業	実施概要
	情報発信・プロモーション	<p>【2017年】 本市の特徴を活かした「サムライ」をメインとしたPV（プロモーションビデオ）事業を県と連携し実施。 本PVでは会津を含む広域周遊ルート「ダイヤモンドルート」を紹介。尚、本PVはシリーズ化され全世界へYouTubeで発信され、合計再生回数は1000万回を超えた。</p> <p>【2018年】 本市の観光に関する基幹ウェブサイトである「会津若松観光ナビ」を全面リニューアルし、セッション数やユーザー数の増加を図った。このことにより両指数とも上昇指向となり改善が見られた。</p> <p>【2019年】 本市の観光に関する多言語ウェブサイトである「Samurai city AizuWakamatsu」のリニューアル事業を実施。「サムライ」イメージの統一を図った結果、閲覧数をはじめ、「セッション数」「ユーザー数」とも増加した。</p> <p>【2020年】 本市の観光に関する基幹ウェブサイト「会津若松観光ナビ」でのネット販売を開始（会員のECサイト紹介特集ページの開設、会津ブランド推進委員会との連携による、会津ブランド認定商品ギフトセットの販売、会津清酒飲み比べセットの販売支援などを行った。） そのほか、賛助会員への一斉メール配信及び一斉FAX送信体制を整備した。</p> <p>【2021年】 LINEを活用した情報・サービス提供の取組みとして、「会津若松観光パスポート」を開設（実証運用）して、旅マエから旅アトまでの接点強化と継続的な関係創出を図っている。</p> <p>【2022年】 着地型旅行商品の造成販売WEBページや予約システム導入と予約ページへの誘導、新たな魅力の発掘と映像等を作成（海なし会津の美味しいお寿司特集、會津おでん、着物で散歩、会津のキリシタン文化など）したほか、各種調査結果を踏ま</p>

		<p>え、エンゲージメント率の高い動画の集約ページを新たに作成整備した。</p> <p>会津若松観光パスポートについては、CRM 事業に深化させるべく事業を継続した。</p>	
	<p>受入環境の整備</p>	<p>【2018 年】 「東北の観光案内所のネットワーク化事業」へ参加。東北の案内所の連携を進めるための事業に参画。連携と情報の共有の深化に努めた。</p> <p>【2019 年】 会津若松駅「V」案内所リニューアル事業を実施。本市のゲートウェイである会津若松駅内の「V」案内所の機能強化を図るため東日本旅客鉄道(株)と連携しリニューアル事業を実施。また、国土交通省認定の手荷物配送を行う「手ぶらで観光」カウンターに県内で初めて正式認定された。</p> <p>【2020 年】 「東北の観光案内所のネットワーク化事業」への参画の他、JNTO 認定外国人案内所セミナー・研修会に参加するなど、受け入れ態勢整備に向けた対応を行った。</p> <p>【2021 年】 案内所セミナー・研修会に参加するなど、受け入れ態勢整備に向けた対応を行ったほか、DMO の拠点として、地域の玄関口である会津若松駅構内に事務所を移転、あわせて「駅たびデスク」を開設し、情報サービス提供と着地型商品の販売、レンタサイクルなどをスタートさせた。 また、新たに観光アドバイザーを招聘したほか、会津 DMO 会議、ワーキンググループを開催するなど、観光地域づくり推進による地域の観光振興や DMO 推進体制の強化を図った。</p> <p>【2022 年】 数多くの着地型旅行商品の企画造成を進めたほか、販売のための WEB ページ作成や予約決済システム導入、旅行業 2 種取得による取扱い商品の充実化、チケット販売等に係る駅旅デスク窓口でのキャッシュレス決済の導入、多言語整備事業の採択による英語版 WEB サイトの多言語整備、ワーキンググループリーダー会議の定例化による事業推進体制強化と新たな事業の企画立案や提案なども行った。</p>	
	<p>観光資源の磨き上げ</p>	<p>【2017 年～】 「サムライコンテンツ」に着目したプロモーションや着地型旅行商品の造成を行い、「剣道」「なぎなた」「弓道」など体験型商品を造成した。 訪日外国人観光客誘致のため策定した「農資源」や地域の「食」を活用した「農泊食文化海外発信地域取り組み計画」が農林水産省より SAVOR JAPAN として認定され、この計画に</p>	

	<p>基づき、「農」や「食」に関する受け入れのための事業、着地型旅行商品型の造成などを行った。 また、工場見学や産業遺産等を観光資源として活用する「会津若松産業資産利活用推進事業」を実施。 各企業に対し受け入れの要請やPR（「専用ウェブサイト」による）を行い、新たな観光資源の磨き上げを実施した。</p> <p>【2021年】 企画特集「海なし会津の美味しいお寿司屋さん」を組んだほか、10月1日に全線運転を再開したJR只見線の情報発信とあわせ、旅行商品を造成・販売して、広域周遊の地域の隠れた魅力発掘にも努めた。</p> <p>【2022年】 着地型旅行商品の造成や映像等の作成を通じ、新たな魅力の発掘と磨き上げを行った（只見線沿線、會津おでん、着物で散歩、会津のキリシタン文化など）ほか、次年度事業としてこれまであまりスポットが当たっていなかった会津の茶道文化や抹茶に特化した事業やタイや台湾のインバウンド向けに雪をテーマにした事業をワーキンググループリーダー会議で企画立案、市への提案により予算化、観光庁補助事業に申請、採択となった。</p>	
<p>実施体制 地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【定量的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムライや武家をコンテンツにした着地型旅行商品造成数 「8」 ・新選組をコンテンツにした着地型旅行商品造成数 「6」 ・キリシタン文化をコンテンツにした着地型旅行商品造成数 「1」 ・只見線や鉄道をコンテンツにした着地型旅行商品造成数 「11」 ・SAVOR JAPAN 事業等に関連した着地型旅行商品造成数 「2」 ・ロケ地巡りをコンテンツにした着地型旅行商品造成数 「1」 ・会津若松市内での訪日外国人観光客宿泊者数 令和元年/25,012人 令和2年/9,124人（前年比 36.4%） 令和3年/788人（前年比 8.6%） 令和4年/2,066人（前年比 262.2%） 「会津若松市観光客入込数とその実態調査」（会津若松市） <p>（実施体制の概要） 一般財団法人会津若松観光ビューローが母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、文化財、漆器や酒造業、農業、商工業、まつり協会等、多様な関係者が参画する官民が密接に連携した運営を実施。</p> <p>「会津 DMO 会議幹事会」・「会津 DMO 会議」…戦略の立案・多様な関係者との戦略共有（策定確認） 「会津 DMO 会議ワーキンググループリーダー会議」…戦略の実践 「一般財団法人会津若松観光ビューロー理事会及び評議員」…最終的な意思決定と合意形成。</p>	



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

本市は藩政時代より会津松平藩の城下町として栄え、伝統、歴史、文化、自然など観光産業が盛んな中核都市でもあることから区域を設定するものである。

尚、役割分担の中で全会津を対象とした協議会「極上の会津プロジェクト協議会」とも連携し、本市のみならず会津地域全体の情報発信や、観光消費額向上のための体制づくりも併せ推進していく。

【観光客の実態等】

設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

本市への観光客の入込数

年	人 数	前年比
令和元年	3,002,000 人	-
令和 2 年	958,000 人	31.9 ㊦
令和 3 年	830,000 人	86.6 ㊦
令和 4 年	1,460,000 人	175.9 ㊦

「会津若松市観光客入込数とその実態調査」(会津若松市)

本市での宿泊者数

年	人 数	前年比
令和元年	1,228,915 人	-
令和 2 年	831,685 人	67.7 ㊦
令和 3 年	753,085 人	90.5 ㊦
令和 4 年	983,083 人	130.5 ㊦

「会津若松市観光客入込数とその実態調査」(会津若松市)

鶴ヶ城公園への入込数

年	人 数	前年比
令和元年度	1,132,165 人	
令和 2 年度	577,580 人	51.0 %
令和 3 年度	593,665 人	102.8 %
令和 4 年度	838,195 人	141.2 %

「会津若松市観光地点調査」(会津若松観光ビューロー)

鶴ヶ城天守閣への入場者数

年	人 数	前年比
令和元年	582,566 人	
令和 2 年	314,323 人	54.0 %
令和 3 年	275,446 人	87.6 %
令和 4 年	336,911 人	122.3 %

「会津若松市観光客入込数とその実態調査」(会津若松市)

本市の総合満足度

年	満足度
令和元年度	93.1 %
令和 2 年度	91.0 %
令和 3 年度	91.6 %
令和 4 年度	90.3 %

「会津若松市観光地点調査」(会津若松観光ビューロー)

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

観光資源の活用方法についても記入すること。

それぞれの観光資源について、旅行商品化の際の素材やプロモーション等に活用している

ジャンル	観光資源
温泉	東山温泉・芦ノ牧温泉、神指温泉、富士の湯
歴史・文化など(神社、仏閣、文化財等)*主なもの	国指定史跡大塚山古墳、国指定史跡若松跡(鶴ヶ城)国指定史跡会津藩主松平家墓所(院内御廟)、国指定史跡大塚山古墳、国指定史跡旧滝沢本陣、国指定名勝会津松平氏庭園(御薬園)国指定重要文化財旧正宗寺三匠堂(さざえ堂)、国指定天然記念物 高瀬の大木(ケヤキ)、県指定重要文化財旧中畑陣屋主屋、県指定重要文化財茶室麟閣、日本天文遺産日新館天文台跡、旧会津藩大窪山共同墓地、善龍寺の山門、日本遺産(会津の三十三観音巡り)、什の掟(会津の教え)白虎隊剣舞奉納

観光スポット・施設・交通など*主なもの	鶴ヶ城、御薬園、茶室麟閣、会津武家屋敷、會津藩校日新館飯盛山（白虎隊自刃の地、ゆかりの史跡等含む）、旧滝沢本陣、白虎隊記念館、白虎隊伝承史学館、白木屋資料館、末廣酒造嘉永蔵、会津新選組記念館、会津塗伝承鈴善、会津町方伝承館、昭和なつかし館、まなべこ、美工堂、福西本店、福西漆器店蔵ギャラリー、会津村、可月亭園美術館、漆器工房鈴武、會津壺番館、田村山古墳、皆鶴姫伝説、新選組関係（近藤勇の墓・斎藤一の墓、如来堂など）福島県立博物館、会津鉄道、芦ノ牧温泉駅猫駅長、周遊バス「ハイカラさん・あかべえ」、エコろん号、城下町レンタサイクル、会津芸妓、歴史的景観指定建造物、産業観光施設（再生可能エネルギー施設等含む）
まち歩き・商業施設・アカデミックなど	七日町通り、野口英世青春通り、いにしえ夢街道、神明通り、七日町パティオ、福西本店、会津アピオ、アピタ会津若松店、スマートシティ AiCT、会津大学短期大学部、会津大学
自然（山・湖・樹木など）*主なもの	全国桜の名所百選の地鶴ヶ城公園の桜、国指定天然記念物高瀬の大ケヤキ、市指定記念物葦名花見ヶ森廟所、石部桜、大夫桜、赤井大イチョウ、建福寺境内のシダレザクラ、峰張ザクラ、猪苗代湖湊地区の湖水景観・白鳥の餌付け、河東・北会津地区の田園風景、北会津白山沼のイトヨ、北会津地区のホタル、背あぶり山からの景観、東山大滝、大戸岳山開き
伝統催事など	会津まつり（先人感謝祭）、八葉寺念仏おどり、お日市、白虎隊碑墓前祭、奈与竹碑前祭、東山羽黒山元朝まいり、十日市、歳之神、会津彼岸獅子舞
祭り・イベント（スポーツ含む）など	鶴ヶ城元旦登閣、羽黒山元朝参り、十日市、河東十日市、会津絵ろうそくまつり、アイヅテラス体感/光の杜ミュージアム、ホタルまつり in きたいあいづ、東山温泉お湯かけ祭り、東山温泉盆踊り、芦ノ牧温泉盆踊り大会、会津新選組まつり、會津十楽、かわひがし皆鶴姫まつり、空也念仏踊り、提灯行列、会津藩公行列、日新館童子行列、会津磐梯山踊り、日本酒の乾杯イベント、まちなかアートプロジェクト、鶴ヶ城大茶会、御薬園紅葉のつどい、会津食と技の祭典、あいづ伝統工芸フェア、鶴ヶ城ハーフマラソン大会、大川喜多方サイクリングロード
郷土食・グルメなど	会津地酒、会津米、会津のこづゆ、棒たら、ニシンの山椒漬、馬刺し（赤身）、会津身しらず柿、おたね人参、味噌田楽、会津そば、わっぱ飯、会津ラーメン、会津地鶏、まんじゅう・スルメの天ぷら、会津ソースカツ丼、カレー焼きそば、湊の豆腐もち、会津伝統野菜、会津の菓子、まち歩きスイーツ、会津の醸造品（みそ、しょうゆ）、会津トマト・アスパラガス

	他（あいづ食の陣）、会津の雪下野菜、会津の居酒屋、会津のスナック
会津伝統工芸など	会津塗（漆器）、会津絵ろうそく、会津桐製品、会津木綿、会津あかべこ、起き上がり小法師、会津唐人凧、会津風車、会津の天神様、会津慶山焼、会津ブランド
会津ゆかりの人物（偉人）	葦名盛氏、蒲生氏郷、千少庵、上杉景勝、保科正之、佐瀬与次右衛門、山鹿素行、田中玄宰、松平容頌、松平容保、南摩綱紀、西郷頼母、萱野権兵衛、佐川官兵衛、飯沼貞吉、秋月悌二郎、山本覚馬、廣澤安任、瓜生岩子、山川浩、山本八重、海老名リン、柴四郎、柴五郎、山川健次郎、井深梶ノ助、高峰秀夫、出羽重遠、渡部鼎、大山捨松、若松賤子、西郷四郎、松江豊寿、新城新蔵、野口英世、松江春次、井深八重

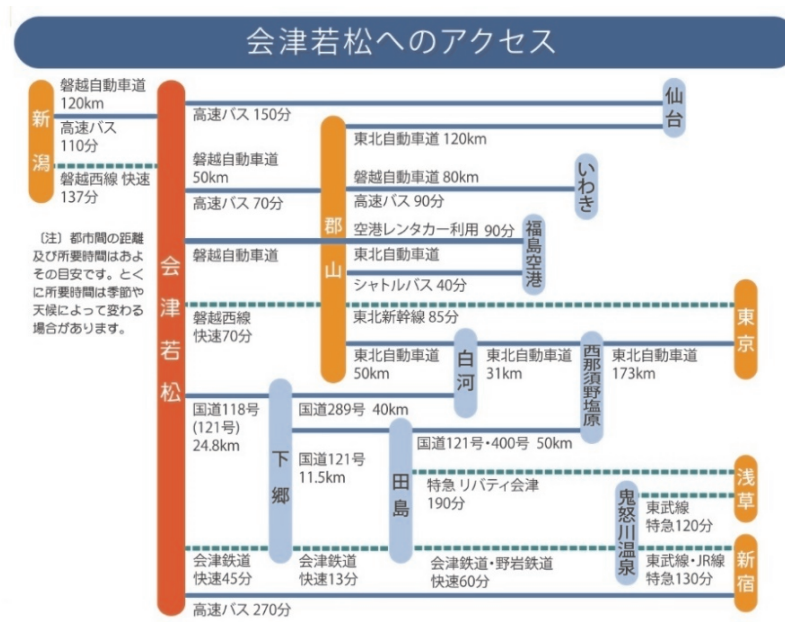
【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

【宿泊施設】

域内分布	施設数	収容人員	部屋数
市街地ホテル旅館	27 施設	2,426 人	1,489 部屋
東 山 温 泉	17 施設	3,843 人	791 部屋
芦 ノ 牧 温 泉	8 施設	2,315 人	443 部屋
民 泊	7 施設	53 人	
合 計	59 施設	8,637 人	2,723 部屋

【利便性：区域までの交通、域内交通】

《区域までの交通》



《域内交通》

(「周遊バス」が市内を循環して気軽に域内観光を楽しむことができる)

会津若松市内を走るシトロ調ボンネットバス。
ちょっと気どった小さな旅のまちなか巡りにご利用ください。

(補助ステップ・車イス用リフト付)

※混雑時は、異なる車両になる可能性もあります。



ハイカラさん



あかべえ

まちなか循環バス

ekoron

エコロン号

往年の路面電車を思わせるシルエットが印象的で、ウッド床の車内も異国情緒漂う洒落た造りになっています。食用廃油を精製したバイオ燃料を使用し、環境にやさしい循環バスです。

【外国人観光客への対応】

常時「英語案内が可能」な案内所として JNTO (日本政府観光局) からカテゴリ「2」の認定を受けた「JR 会津若松駅 V 案内所」と「鶴ヶ城 V 案内所」において情報とサービス提供に努めている。

また、「JR 会津若松駅 V 案内所」では国土交通省より手荷物配送の「手ぶら観光カウンター」として県内で初めて認定され、訪日外国人観光客の利用にも応えている。

その他、会津若松市国際交流協会と連携し、来訪された訪日外国人観光客に外国語 (英語・中国語など) で鶴ヶ城周辺をミニツアーできる体制を整えている。

さらに、平成 29 年には農林水産省が認定する「農泊食文化海外発信地域取り組み計画」が採択され、その事務局として「食」を通じた受け入れ整備とにも努めている。

「食」に関する着地型旅行商品数の造成 「2」
また多言語整備事業に申請、採択され R4 は英語、R5 は中国語での整備を進めている (食と農の景勝地推進協議会事業)

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	会津若松市による、各宿泊施設への照会調査。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	GA4 を活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	アンケート調査を自主事業として実施。
公的観光施設入場者数 (鶴ヶ城、茶室隣閣、御薬園)	本市における主要な観光施設の実利用者数の入場傾向の各種把握と分析	天守閣への入場者数を入場口で把握。
鶴ヶ城公園来場者数	本市のランドマークとして来場者数の定量的把握と分析	自動計測器(24時間体制)により集計。
教育旅行来訪校数	教育旅行は本市観光にとって大きな割合を占め、震災復興の基準としても重要	宿泊施設や立ち寄り入場施設との情報共有により収集。
観光客宿泊者数(外国人)	本市における訪日外国人観光客の実態を分析し今後の事業展開に活用	会津若松市による、各宿泊施設への照会調査。
フェイスブック等 SNS を活用したインサイト分析	会津ファンクラブ会員約 5000 名(2023 年 8 月現在)の属性や趣向性の分析	観光地域づくり法人(DMO)による分析

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

会津若松市でも人口減少や少子高齢化が進んでおり、他の自治体と共通の課題を抱えているため、本市の重要な産業の一つである、観光を軸とした交流人口の拡大による地域の活性化を目指している。

特に観光産業は裾野が広く、他の産業への経済波及効果も高いことから、第3次産業の中でも多くの就業者が従事しており、地域における期待感も高い状況にある。

一方、近年では国内旅行者(教育旅行を含む)の減少や趣向の多様化、また、増加する訪日外国人観光客の受け入れへの対応などの課題も山積していることから、DMOを中心に地域一丸となって、分散型観光(繁閑格差の解消や平準化)の推進と観光消費額の拡大を目標に掲げ、交流人口創出のための課題を整理するとともに、共通認識に基づく役割分担を行うなど、戦略的に持続可能な地域づくりを進めていくこととしている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ <p>< 観光資源 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的観光資源が豊富：歴史の節目節目で会津は重要な役割を果たし(特に幕末) 歴史ファンに魅力ある地として根強い人気がある(新選組、松平容保等)。 ・ 会津にはその長い歴史に立脚し鶴ヶ城に代表される史跡や遺跡が多い。 ・ 江戸時代に整備が進んだ藩直営である御薬園は、藩主の庭園で往時の姿を残している。全国で藩直営の御薬園が残るのは本市のみ。 ・ 豊富な食の観光資源：会津の米、会津の酒は近年特に注目され、新酒鑑評会金賞受賞蔵の数は福島県が9年連続第1位。その中でも会津の蔵元が一番多い。 ・ 「和食が世界遺産」として注目されたことも追い風となっている。 ・ 多様な文化的観光資源：仏教文化や茶道文化 伝統工芸など多様な文化的観光資源が多い。特に会津漆器、赤べこ、起き上がり小法師などは知名度があり、工芸品として有名。 ・ 良質な温泉地：市内には東山温泉・芦ノ牧温泉という良質な二大温泉郷および宿泊施設がある。 ・ JR 只見線が全線での運転を再開した。 <p>< 受入環境 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利便性の高い二次交通：会津若松駅から観光スポットを巡る「ハイカラさん、あかべえ」等まちなか周遊バスが運行しており二次交通が確立されており、城下町を周遊できる。 ・ 市民の「おもてなし」の心：観光客をお迎えする「おもてなしの心」が広く市民に浸透していることから、教育旅行の自主研修に最適の地として評価されている。 ・ 会津藩校日新館に代表される道德教育：現在でも継承される会津藩の教えは、道德教育の一環として近年教育旅行においても注目されている。 ・ スマートシティへの取り組み ・ 本市では ICT などを活用して、地域産業の活性化を図りながら、安心して快適に生活できる「まちづくり」が進められている。 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ <p>< 観光資源 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外での知名度が低い：海外における観光地としての認知度、ブランド力が不足している。 ・ また訪日外国人観光客に訴求できる着地型コンテンツが不足している。 <p>< 受入環境 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人受入環境が十分でない：訪日外国人観光客の受入に伴う、市内散策で各個店での FIT 等の受け入れの経験値が少ない。 ・ まちなか周遊との連携が不足：鶴ヶ城には多くの観光客が来訪するが、そこからまちなかへの誘導策が十分とは言えない。 ・ 年間における大きな繁閑の差：グリーンシーズンに観光客が集中する一方、冬季間の観光客の入りこみが極端に少ない。 ・ MICE の受け入れ体制が弱い：MICE 誘致に伴う受け入れ体制の強化が課題となっている。 ・ 新型コロナウイルス感染の影響による受入れ事業者の不安：コロナ禍の長期化に伴う経営状況の不振
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域にとって追い風となる要素は何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染収束を見据えた入国制限の緩和：日本への入国制限の緩和が検討されている国々は会津若松への来訪実績 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域にとって逆風となる要素は何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 風評被害：東日本大震災での原発事故に伴う、根強い「風評被害」がある。(特に訪日外国人観光客誘致に関して)

<p>が上位国である（台湾・タイなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京-日光-会津の周遊ルートのプロモーション：東京を発地とし日光と会津は鉄道（東武・野岩・会津鉄道）でつながり、車でも約3時間の距離にある。 日光市と会津若松市は観光に関する連携協定を締結し広域観光の推進による相互の誘客拡大を強化。 訪日外国人観光客の誘客でも注目されるルートとなっている。 新潟市、佐渡市との広域連携の取組みが進められている。 <p>地域の応援団でもある「会津ファンクラブ」に加入する会員数が増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他都市との競争の激化：観光地間競争が過熱していることから、観光地としての魅力向上を図り「選ばれる観光地」を目指す必要がある。 国内旅行需要の縮小：旅行ニーズや旅行スタイルの変化に的確に対応していく必要がある。（新型コロナウイルス感染拡大の影響に注視する必要あり）
---	--

上記に加え、P E S T分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）

（ 3 ） ターゲット

<p>第1ターゲット層 首都圏及び隣県・県内のグループ・ファミリー層（20～40代のリピーター）</p>
<p>選定の理由 これまでに行った来訪者分析から最も多い当該ターゲット層としている。 特に県内の来訪層はリピーターが多く定量的にも「東京都」に次ぐ来訪があり、これに隣県が続いている。 また本市は歴史、文化、食、温泉といった観光資源が豊富で隣県等に対する強みがある。</p> <p>○取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携DMOである福島県観光物産交流協会と連携し、県内及び隣県からの誘客を行うとともに、受け入れ側となる地域住民に対しても受け入れのための情報提供や取り組み内容を共有する。 広域観光連携協定に伴う日光市や以前から連携を図っている新潟市や佐渡市と協働し誘致に努めていく。 新たな切り口として、会津の茶道文化や抹茶に特化した事業を秋のJR重点販売や県の観光キャンペーンのタイミングに合わせて取り組む。若い人の感性に刺さるようインスタ映えなども意識した気軽に楽しめる抹茶スイーツ事業やティーストーリー事業の展開により誘客を図る考え。
<p>第2ターゲット層 教育旅行来訪校</p>
<p>選定の理由 「利便性の高い二次交通」や「市民のおもてなしの心」、また、注目される「道德教育」などに強みがある。 さらに年間を通した観光経済の好循環化には教育旅行の誘致は欠かせない。（地域の観光入込の端境期、繁閑格差を埋める大切なお客様） 東日本大震災から10年が経過し、ベースとしてはようやく震災前の水準に回復してきた。 今回の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、行先を変更した関東圏（栃木・茨城）の各校の今後の動きを注視、宮城や新潟など定番地域の継続と維持のため新たな魅力の提供を含め力を入れていく必要がある。</p> <p>取り組み方針</p>

<p>会津ならではの道徳教育（「ならぬことはならぬ」の仕の掟）や歴史的価値観（幕末戊辰戦争から近代化に向け荒廃から立ち上がった姿）を訴求し誘致を促していく。</p> <p>また、コロナ収束に合わせ、昨年から再開した営業活動（教育旅行取扱いエージェントへのセールス）を積極的に展開し情報発信していく。</p> <p>さらに歴史学習にとどまらない、ICTなど本市の特性を生かした新たな受け入れや体験メニューの開発を地域関係者と進める。</p>
<p>第3ターゲット層 訪日外国人観光客 台湾・タイ・欧・米・豪：(20～30代：日本へ複数回来訪しているものの会津へは初めての来訪となるFIT層)(豪：スキーヤー)</p>
<p>選定の理由 長年の地域課題であり懸案となっている冬季間の顧客確保には、インバウンドの力が欠かせないと認識しているが、「台湾」「タイ」については、本市への来訪実績上位二か国であり、ともに雪が降らない地域であるため、冬季間の需要を満たしていただける可能性が非常に高いこと、</p> <p>またオーストラリアは、新型コロナウイルス感染前には、スキー需要の拡大が顕著にみられた国であり、かつ欧米と合わせ、長期滞在型の旅行動向の特性があることから、将来に向け、冬季間の需要を満たしていただける可能性が高いと判断されること、なお、年代及び属性の設定については独自アンケートから選定した。</p> <p>取組方針 採択となった観光庁の観光再始動事業（スノーワンダーランド）や、スノーリゾート形成計画を足掛かりに誘致やプロモーションを図っていく。</p> <p>また、ティーストーリー事業についてもインバウンドも意識した事業展開を図る</p> <p>なお、各プロモーションについては、広域DMOである東北観光推進機構や地域連携DMOの福島県観光物産交流協会と連携し、効率的でより効果的なプロモーションを行っていく。</p> <p>合わせて、地域DMOでは受け入れのための充実に努めていく（「着地型旅行商品」の造成など）</p>

(4) 観光地域づくりのコンセプト

<p>コンセプト</p>	<p>SAMURAI CITY 会津若松 ～「義」を貫くまち～</p> <p>いつの時代も「義」を重んじ、「義」を貫く。</p> <p>地域に根ざした歴史や文化を活かし、この地域でしかできない体験メニューの造成とともに、地場産品の開発や提供にこだわり一体となった、おもてなしを実践する観光都市。</p>
<p>コンセプトの考え方</p>	<p>コンセプトの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の名だたる武将がこの地を治め東北の要として歴史を紡いできた。 ・会津若松は豊かな自然に恵まれている。 ・会津若松は酒や漆器などの伝統産業が根付いている。 ・会津若松は幕末戊辰戦争において最後まで江戸幕府への「義」を貫いて戦い、明治以降、敗戦の苦難から立ち上がってきた。(戊辰戦争/ならぬことはならぬ/教育) ・会津若松は「サムライ」終焉の地である。(「SAMURAI CITY Aizu Wakamatsu」が市の商標として登録、2019年には「サムライプライド」「SAMURAI PRIDE」も会津若松観光ビューローで商標登録) ・会津若松は特有の歴史・教育を有し、それらを脈々と受け継ぎ育んできた土地柄である。 <p>特に幕末から明治にかけての日本の歴史の転換期には想像を絶する苦難に翻弄されながらも、日本の近代化に向けて立ち上がった先人の姿は、</p>

	<p>現在の震災からの復興や新型コロナウイルス感染拡大の収束と払拭に必ずや通じるものがある。</p> <p>頑なに「古き」を守りつつ、現代のICT技術や環境技術の活用に積極的に取り組む先進性も、歴史に裏付けられた気質にある。</p> <p>こうした古き良き、そして革新に挑戦する会津若松は「日本」を代表する土地であり、これらを観光資源として磨き上げていく。</p> <p>また、会津地域には豊富な観光資源が点在しており、これらを活用した「あたらしい旅」にも対応するため本市を拠点とした受入環境（「ワーケーション」等）も整備していく。</p>
--	--

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
<p>戦略の多様な関係者との共有 頻度が分かるよう記入すること。</p>	<p>戦略の共有方法について記入すること (例) 部会、ワーキンググループ、HP、事業報告書の説明会</p> <p>(例) DMOを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニケーションの場を〇月に1回程度設けるとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施。</p> <p>(例) 活動の意義・内容・成果、KPIの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、地域の関係者に説明を行うとともに、HPで公表。</p>
<p>多様な関係者からなる「会津DMO会議」のほか、6つのワーキンググループを設け、各リーダーが一堂に会するワーキンググループリーダー会議を定例開催</p>	<p>月1回程度のワーキンググループ・リーダー会の定例会を開催。この会には毎回幹事会メンバーであるビューロー、会議所、市役所観光課も参加し、地域の課題解決に向けた実働部隊として、データ分析や各種勉強会による情報共有や認識を共有、事業の企画立案や事業推進、戦略の立案や調整などを含めた方針の決定、DMO会議や理事会、市への提案など、一連のPDCAサイクルによるDMOを強力に推進。</p> <p>活動の意義・内容・成果、KPIの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、地域の関係者に説明を行うとともに、会津DMO会員専用ページにてHP公表。</p>
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<p>(例) 飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係る品質保証制度を実施。</p>
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<p>2021年6月に会津若松観光ビューローのDMO担当部署を会津若松駅舎内に移設して観光拠点を設置した。「会津DMO会議」構成メンバーを巻き込みながら、着地型旅行商品の造成・販売の体制を構築している。</p> <p>また、LINEを活用したサービス提供（クーポン配信等）を行い、登録者の属性や利用状況を把握する実証事業を展開している。</p> <p>観光案内所研修会への参加（東北地区・全国）</p> <p>旅行業資格取得：今年度2名がトライ、業種でも旅行業2種への移行済</p>

	<p>みとしてより高品質な商品提供を目指している ボランティアガイド研修会、勉強会の開催、ボランティアガイド養成講座の開催 観光政策研修会への参加（11/28-12/2） 東北管区推進機構や県開催のセミナー研修会、商談会への参加や営業活動等における実地研修など サービスの維持向上等に向けた取り組みを進めている</p>
<p>観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>（例）ワンストップ窓口の実施、SNSを利用した効果的なプロモーションの実施。</p>
<p>観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>本市の観光基幹ウェブである「会津若松観光ナビ」を活用し地域内の情報を収集して、一元的な情報発信を行っている。 それに加え、会津地域の応援団としての「会津ファンクラブ（会員国内外約5,000名）」を対象にLINEを活用した公式アカウント「会津若松観光パスポート」と紐づけてデジタルを活用した関係性の構築を目指している。 インバウンド向けには観光基幹ウェブである「Samurai City Aizuwakamatsu」を活用し、欧米用にデザインされたWEBサイトにて一元的な情報発信を行っている。また、会津若松市国際交流協会と協力し、市内在住の外国人よりSNSアンバサダーを募り、外国人目線から本市PRを行う準備をしている。</p>

各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6 . K P I (実績・目標)

戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

(1) 必須 K P I

指標項目		2020 (R 2) 年度	2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	15,959 (282)	58,970 (366)	63,650 (50)	63,650 (53)	63,650 (55)	63,650 (58)
	実績	56,911 (402)	40,567 (34)	52,349			
延べ宿泊者数 (千人)	目標	213,524 (6,390)	500,655 (7,029)	1,129,500 (950)	1,129,500 (1,000)	1,129,500 (1,050)	1,129,500 (1,100)
	実績	831,685 (9,124)	753,085 (788)	983,083 (2,066)	()	()	
来訪者満足度 (%)	目標	82.3 (90)	91 (90)	91	91	91	91 ()
	実績	91 (-)	91.6 (-)	90.3 (-)			
リピーター率 (%)	目標	69.5 (15)	71 (20)	71	71	71	71 ()
	実績	71 (-)	59.1 (-)	61.1 ()	()	()	

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値 D

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

K P I として設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごと出来る限り具体的に記入すること。

.....

【設定にあたっての考え方】

旅行消費額

令和3年度までは、すでに実績が出ていることから、前回提出の数値をそのままとした
(継続している国内観光客向けじゃらんリサーチからの結果を反映)

令和4年度以降は前回見直しを行った。

うち4年度は、延べ宿泊者数の見込み数値 (1,129,500 人) の R1 実績対比 (約 90%) から R1 消費額
実績の約 90% を見込んだ

なお、外国人については、R4 延べ宿泊者数の見込み数値の構成率 (0.08) より算出

延べ宿泊者数

令和3年度までは、すでに実績が出ていることから、前回提出の数値をそのままとした

令和4年度以降は前回見直しを行った。

うち4年度は、1~8月までの観光庁の宿泊統計データ伸び率 (前年対比 1.68) から対前年実績の
1.5 の伸びを見込む、なお、外国人は回復の遅さを考慮し、1.2 の伸びを見込んだ

令和4年度は、全国旅行支援の効果なども大きいと考えられること、5年以降は支援の打ち切りの可能性や、コロナの再拡大など流動的な要素があり、目標の設定も難しいことから、4年度の見込み数値の維持を当面の目標とした。

なお、外国人については、緩やかな回復を期待し、年5割の伸びを見込んだ実績数値については、市の調査数値へ統一（暦年1-12月）

来訪者満足度

来訪者満足度については、国内観光客向けリサーチ結果よりの結果である。訪日外国人観光客についても独自調査により1~5段階の指標で「4」及び「5」と回答した方の割合を実績値とした。2020年度以降のリサーチについて検討が必要。国内観光客向けには91割を当面の目標とする。

リピーター率

リピーター率については、国内観光客向けリサーチ結果よりの数値である。

訪日外国人観光客についても独自調査の実績値。

訪日外国人観光客については、「台湾」・「タイ」他を想定し現状の15%程度から25割を当面の目標としている。

尚、2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響から国内観光客及び訪日外国人観光客へのリサーチを行うことができず、2021年以降についてもリサーチ手法を変更せざるを得ない状況にある。

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
(例)住民満足度 (%)	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			
(例)宿泊施設の稼働率 (%)	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			
(例)ワンストップ窓口での宿泊予約数 (件)	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			
(例)メディア掲載回数 (回)	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			
観光客入込数 (千人)	目標	3,864	3,886	2,820	2,820	2,820	2,820
	実績	()	()	()	()	()	()
教育旅行県外来訪校数 (校)		739	767	825	700	730	760
		()	()	()	()	()	()
		787	888	908			

		()	()	()	()	()	()
--	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

KPIとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

【設定にあたっての考え方】

観光客入込数

令和3年度までは、すでに実績が出ていることから、前回提出の数値をそのままとした

令和4年度以降は前回見直しを行った。

うち4年度は、延べ宿泊者数の入込み数に占める比率（R1実績：約40%）で、延べ宿泊者数を割戻して算出。以降も同様に算出。

実績数値については、市の調査数値へ統一（暦年1-12月）

「教育旅行県外来訪校数」

令和3年度までは、すでに実績が出ていることから、前回提出の数値をそのままとした

令和4年度以降は前回見直しを行った。

うち4年度は、ビューローの直接調査（下見+資料送付+各主要施設聞き取り）による集計値を記載以降の数値も、AGTや学校への独自営業訪問や聞き取り調査の結果を踏まえ、コロナによる特殊事情からの回復と通常期への移行を見込み、独自に算出した数値を記載している（R1をベースに30校程度の期待値を加算）

実績数値については、ビューローの調査数値へ統一（年度4-3月）

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。
現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（1）収入

年（年度）	総収入（千円）	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	178,500	*市補助（53,361）*会費収入（2,727）*その他収入： （148）*自主財源（18,924）市委託（99,099） 市委託（4,241）
2021（R3） 年度	174,282	*市補助（43,482）*会費収入（2,268）*その他収入： （9,033）*自主財源（19,371）市委託（100,128）
2022（R4） 年度	83,456	*市補助（48,305）*会費収入（4,465）*その他収入： （8,669）*自主財源（22,017）

2023 (R 5) 年度	97,420 (見込み)	* 市補助 (58,897) * 会費収入 (4,400) * その他収入 : (10,750) * 自主財源 (23,373)
2024 (R 6) 年度	97,420 (見込み)	* 市補助 (58,897) * 会費収入 (4,400) * その他収入 : (10,750) * 自主財源 (23,373)
2025 (R 7) 年度	97,420 (見込み)	* 市補助 (58,897) * 会費収入 (4,400) * その他収入 : (10,750) * 自主財源 (23,373)

(2) 支出

年 (年度)	総支出 (千円)	内訳 (具体的に記入すること)
2020 (R 2) 年度	178,500	* 観光案内所運営事業 7902 * 教育旅行誘致及び受入れ整備事業 7,108 * 利用促進プロモーション等事業 16,026 * 一般管理費 44,124 * 着地整備事業 4,241 * 市委託事業 99,099
2021 (R 3) 年度	174,282	* 観光案内所運営事業 7,822 * 教育旅行誘致事業 3,058 * インバウンド誘致等事業 34 * コンベンション誘致等事業 100 * 物産推進事業 339 * 着地整備事業 9,546 * 情報発信事業 8,346 * 利用促進プロモーション事業 5,486 * 一般管理費 39,423 * 市委託事業 100,128
2022 (R 4) 年度	83,456	* 誘客宣伝事業 11,402 * 物産振興事業 50 * 受入態勢整備事業 15,678 * 地域連携事業 1,765 * 事務費 26,415 * MICE 誘致等事業 264 * 地域間交流事業 29 * 教育旅行誘致事業 4,210 * インバウンド誘致等事業 1,125 * 観光地域づくり推進事業 6,044 * 事務費 16,473
2023 (R 5) 年度	97,420 (見込み)	* 誘客宣伝事業 11,628 * 物産振興事業 25 * 受入態勢整備事業 16,968 * 地域連携事業 2,145 * 事務費 26,563 * MICE 誘致等事業 178 * 地域間交流事業 123 * 教育旅行誘致事業 4,989 * インバウンド誘致等事業 2,058 * 観光地域づくり推進事業 14,470

		* 事務費 18,273
2024 (R 6) 年度	97,420 (見込み)	* 誘客宣伝事業 11,628 * 物産振興事業 25 * 受入態勢整備事業 16,968 * 地域連携事業 2,145 * 事務費 26,563 * MICE 誘致等事業 178 * 地域間交流事業 123 * 教育旅行誘致事業 4,989 * インバウンド誘致等事業 2,058 * 観光地域づくり推進事業 14,470 * 事務費 18,273
2025 (R 7) 年度	97,420 (見込み)	* 誘客宣伝事業 11,628 * 物産振興事業 25 * 受入態勢整備事業 16,968 * 地域連携事業 2,145 * 事務費 26,563 * MICE 誘致等事業 178 * 地域間交流事業 123 * 教育旅行誘致事業 4,989 * インバウンド誘致等事業 2,058 * 観光地域づくり推進事業 14,470 * 事務費 18,273

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

会津若松市からの補助金と会津若松観光ビューローの自主財源（管理運営施設等の収益）及び賛助会員の会費等を主な資金として確保。

この他、旅行業登録を行い旅行商品の造成・販売や会津若松駅に設けた観光拠点での有料サービスの展開により収益の確保に努めている。今後も様々な財源確保の手法を検討していく。

（追記）

なお、2020年4月に示された観光庁からの「観光地域づくり法人の登録制度に関するガイドライン」の改正に伴い2020年9月以降、運営資金（自主財源）確保のため、会津若松市観光課と以下の確認及び協議を継続して行っている。

【安定的な運営資金の確保のための確認及び協議】

* 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組方針

〔既存の運営資金〕

会費収入

地元観光事業者等（約330団体）より年会費を得ており、今後も会員増を図っていく。

広告料

パンフレットおよびオフィシャルサイトにおける広告掲載料を得ている。

キャラクター版権使用料

あいづのマスコットキャラクター「あかべえ」の商標登録手数料について、使用する事業者より販売価格の3%の使用料を得ており今後も利用促進に努めていく。

自主財源

市の指定管理者として、観光施設運営から得られる収益の一部をDMO事業に充てている。

〔運営資金確保に向けた今後の取り組み〕

着地型旅行商品の造成・販売

令和3年度に、会津観光のゲートウェイであるJR会津若松駅にDMO拠点を新たに設置し、着

地型旅行商品の造成・販売を本格的に行い、手数料収入を得ていく。

OTA登録の促進

着地型旅行商品や体験コンテンツ等をOTAに登録し、販路拡大を行いながら手数料収入を得ていく。

旅行エージェントからの商品造成受託

発地のエージェントより会津商品の造成を受託し委託料収入を得ていく。

宿泊予約サイトの構築

大手のネットエージェントに対し、宿泊予約サイトへ多くの手数料を支払っている現状から、地域独自のサイトを構築し、宿泊施設の取りまとめを行いながら運営管理料を得ていく。

観光 MaaS の企画・運営

周遊きっぷ、1日フリー乗車券、教育旅行用GPS安否確認システムなどの交通アプリサービス各種の運営管理を行い、手数料収入を得ていく。

*上記のほか、DMOに収益が発生する仕組みや補助金について、今後も市と協議を継続して行っていく。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

一般財団法人会津若松観光ビューローは、平成28年5月DMO候補法人に認定、また、令和3年3月にはDMO法人に認定され、本市観光・物産振興を担う中心的組織として積極的な活動を展開しており観光振興に大きく貢献している。

さらに本市観光のシンボルである鶴ヶ城をはじめとした本市観光・文化施設の指定管理者としても優秀な実績があり、本市の観光地域づくりにおいて主導的な役割を担い、観光関連事業者等との連携のもと地域一体となって更なる観光振興が図られるものと期待している。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

（例）エリアが重複する DMOとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

10 . 記入担当者連絡先

担当者氏名	新井田信哉
担当部署名(役職)	観光物産事業部 次長
郵便番号	965-0873
所在地	福島県会津若松市追手町1番1号
電話番号(直通)	0242-23-8000
FAX番号	0242-23-9000
E-mail	s.niida@tsurugajo.com

11 . 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	福島県会津若松市
担当者氏名	吉川 信
担当部署名(役職)	観光商工部観光課長
郵便番号	965-8601
所在地	福島県会津若松市東栄町3番46号
電話番号(直通)	0242-39-1251
FAX番号	0242-39-1433
E-mail	002243@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp

都道府県・市町村名	福島県会津若松市
担当者氏名	鈴木吉勝
担当部署名(役職)	観光商工部観光課副主幹
郵便番号	965-8601
所在地	福島県会津若松市東栄町3番46号
電話番号(直通)	0242-39-1251
FAX番号	0242-39-1433
E-mail	yosikatu@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp

記入日: 令和5年 8月 25日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
 福島県会津若松市
 【設立時期】平成26年4月1日
 【設立経緯】旧観光公社と旧観光物産協会が統合し観光ビューローが設立されDMOに登録
 【代表者】理事長 新城猪之吉
 【マーケティング責任者(CMO)】新井田信哉「専従」
 【財務責任者(CFO)】佐藤光一
 【職員数】8人(常勤8人(正職員6人・契約1人・臨時1人))
 【主な収入】
 市補助金48百万円、他会計からの繰り入れ22百万円、収益事業13百万円、委託事業0百万円(R4年度決算)
 【総支出】
 事業費40百万円、一般管理費43百万円(R4年度決算)
 【連携する主な事業者】
 福島県観光物産交流協会・会津若松商工会議所、東山温泉観光協会・芦ノ牧温泉観光協会、各交通事業者など

KPI(実績・目標)

()内は外国人に関するもの。

指標項目		2020	2021	2022	2023	2024	2025
		(R2) 年度	(R3) 年度	(R4) 年度	(R5) 年度	(R6) 年度	(R7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	15,959	58,970	63,850	63,850	63,850	63,850
	実績	(282)	(366)	(50)	(53)	(55)	(58)
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	213,524	500,655	1,129,500	1,129,500	1,129,500	1,129,500
	実績	(6,390)	(7,029)	(950)	(1,000)	(1,050)	(1,100)
●来訪者満足度 (%)	目標	82.3	91	91	91	91	91
	実績	(90)	(90)	(90.3)	()	()	()
●リピーター率 (%)	目標	69.5	71	71	71	71	71
	実績	(15)	(20)	(20)	()	()	()

戦略

【主なターゲット】
 「首都圏及び隣県・県内のグループ・ファミリー層」(20~40代のリピーター)、教育旅行、インバウンド(タイ・台湾/欧米豪)
 【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
 地域連携DMO等や市と連携して誘客を行うとともに、地元関係者の情報提供や取り組み内容を共有。特に広域観光連携協定に伴う日光市や新潟市・佐渡市との連携を図りながら市と協働して誘致に努めていく。インバウンドについては、冬季誘客を柱にした戦略的的事业を複数展開
 【観光地域づくりのコンセプト】
 SAMURAI CITY 会津若松 ~ 「義」を貫くまち ~
 いつの時代も「義」を重んじ、「義」を貫く。
 地域に根ざした歴史や文化を活かし、この地域でしかできない体験メニューを造成、おもてなしを実践する観光都市。

具体的な取組

- 【観光資源の磨き上げ】
 - ・着地型旅行商品の造成販売を実施
 - ・Teaストーリーズ事業を企画推進
 - ・観光再始動事業(スノーワンダーランド)を企画開発、造成
 - ・国際競争力の高いスノーリゾート形成計画を策定
- 【受入環境整備】
 - ・多言語整備(英語・中国語)
 - ・WEB予約決済システム導入
 - ・キャッシュレス決済導入
- 【情報発信・プロモーション】
 - ・会津若松観光ナビHPによる地域情報の一元発信
 - ・動画作成、動画集約ページ新設
 - ・LINE活用による会津若松観光パスポート事業(CRM)
 - ・SNS(Facebook、インスタ、TwitterX)

